

PICK UP MOVIE



© 2018 Minding the Gap LLC. All Rights Reserved.

行き止まりの世界に生まれて

[2018年/アメリカ/93分] 監督・製作・撮影・編集：ビン・リュウ
出演：キアー・ジョンソン、ザック・マリガン、ビン・リュウほか

“傷だらけのぼくらが見つけた明日——”

ラストベルト（錆びついた工業地帯）——
アメリカの繁栄から見放された土地
閉塞感ある故郷を抜け出そうと必死にしがむ
若者3人を追った12年間



[解説]「アメリカで最も惨めな町」イリノイ州ロックフォードに暮らすキアー、ザック、ビンの3人は、幼い頃から、貧しく暴力的な家庭から逃れるようにスケートボードにのめり込んでいた。スケート仲間が彼らにとって唯一の居場所、もう一つの家族だった。いつも一緒だった彼らも、大人になるにつれ、少しずつ道を違えていく。低賃金の仕事を始めたキアー、父親になったザック、そして映画監督になったビン。ビンのカメラは、明るく見える3人の悲惨な過去や葛藤、思わぬ一面を露わにしていく。希望が見えない環境、大人になる痛み、根深い親子の溝…ビンが撮りためたスケートビデオと共に描かれる12年間の軌跡に、何度も心が張り裂けそうになる。それでも、彼らの笑顔に未来は変えられると、応援せずにはいられない。痛みと希望を伴った傑作が誕生した。

[上映日程] 3/13~26 (休映：3/15、22)

上田映劇 × 犀の角！ 映画を観たあとみんなで語りませんか？

『行き止まりの世界に生まれて』オープニングダイアログのお知らせ

上田映劇と犀の角のコラボ企画として、映画を観たあとの対話の場を開いています。第2回目は、ヒリヒリするような日常をスケボーで駆け抜ける若者たちのドキュメンタリー『行き止まりの世界に生まれて』をセレクト！となどでもご参加いただけます。

日時：3月13日（土）
18時～20時
会場：犀の角
料金：ワンドリンクオーダー

スケボーとカメラで僕らは成長した

アメリカは先進国の中では貧富の格差が突出して大きい。とりわけラストベルト（赤さび地帯）と呼ばれるかつての工業地帯は、産業の衰退が著しく、貧困層が増えている。この作品の舞台はそんなさびれかけた町、イリノイ州ロックフォードだ。

少年たちがスケートボードで、競って難しい技に挑む。そのまま街へ飛び出し、すれ違う車も、段差やガードレールもものともせず駆け抜けていく。カメラもスケボーで併走しているかのようにハラハラさせられるスピード感は、命の危険と隣り合わせで生きる彼らの日常感覚そのものだ。

かつての繁栄の名残だろうか、少年たちの住む家はそれぞれ瀟洒な一戸建てだが、内実は厳しい。貧困、家族の崩壊、家庭内暴力。そんな家を抜け出して、少年たちがひたすら熱中するスケボーは、高度な集中力を要する遊びなのだ。

監督のビン・リュウは、全身をコントロールして宙に舞うスケボー仲間カメラを向け、ムービーにした。その画面に魅せられて、彼らはさらにスケボーにのめりこんだ。幼い少年のころから10年以上も撮影をしてきたビンは、ある日気づいた。仲間を撮り続けるのは、彼らが抱えている心の痛みが、自分と響きあうからだ、と。

ビンはカメラを介在させて、仲間や家族と対話を始める。それは、これから前に進むためにはどうしても必要なことだった。悲惨な境遇の少年たちを描いたこの作品に一条の光を感じる理由は、このあたりにありそうだ。ビンは自分に暴力をふるった人をさえ糾弾しようとはせず、なぜなのかと考え続ける。失敗を重ねる弱い人間を見守り、それぞれの物語を紡ぎだす。ドキュメンタリー界に新たな才能が現れた。

tamura shizue
田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオジエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。